

2026年度(後期)

作業療法学科 2 学年
教育計画

関東リハビリテーション専門学校

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT評価学(OT総合演習Ⅰ)

担当講師名 : 笹野 直人

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 身体障害評価において評価計画、目標設定、治療プログラムの立案ができる。

検査・測定を円滑に実施することができる。

【講義概要】

身体障害評価について、より臨床的、総合的内容を実技練習、課題演習を通して学習する。

回数	項 目	内 容
1	身体障害評価演習（1）	総合演習
2	身体障害評価演習（2）	総合演習
3	身体障害評価演習（3）	総合演習
4	身体障害評価演習（4）	総合演習
5	身体障害評価演習（5）	総合演習
6	身体障害評価演習（6）	総合演習
7	身体障害評価演習（7）	ケーススタディ
8	身体障害評価演習（8）	ケーススタディ
9	身体障害評価演習（9）	ケーススタディ
10	身体障害評価演習（10）	ケーススタディ
11	身体障害評価演習（11）	総括
12	身体障害評価演習（12）	総括
13	身体障害評価演習（13）	総括
14	身体障害評価演習（14）	総括
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 レポートの成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験）

実技とケーススタディを中心とした形式で授業を行う。

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学11(精神科OT学IV)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版
(出版社) : (中央法規出版)参考書 :
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 精神科OTにおける基本的な流れを再確認し、各疾患ごとの特徴や症例をもとに

評価や治療について学ぶ

【講義概要】

これまでの精神科関連授業の内容を元に、各疾患の症状・病期に合わせた作業療法士の関わりを学ぶ。

疾患別の精神科作業療法という枠組みで学習を進める。

回数	項 目	内 容
1	精神科医療について	精神科評価について振り返りながら精神科医療について確認する。
2	各疾患の理解と作業療法展開①	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
3	各疾患の理解と作業療法展開②	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
4	各疾患の理解と作業療法展開③	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
5	各疾患の理解と作業療法展開④	気分障害の理解と作業療法について考える。(事例)
6	各疾患の理解と作業療法展開⑤	神経症の理解と作業療法について考える。(事例)
7	各疾患の理解と作業療法展開⑥	神経症の理解と作業療法について考える。(事例)
8	各疾患の理解と作業療法展開⑦	摂食障害の理解と作業療法について考える。(事例)
9	各疾患の理解と作業療法展開⑧	依存症候群の理解と作業療法について考える。(事例)
10	各疾患の理解と作業療法展開⑨	依存症候群の理解と作業療法について考える。(事例)
11	各疾患の理解と作業療法展開⑩	パーソナリティ障害の理解と作業療法について考える。(事例)
12	各疾患の理解と作業療法展開⑪	パーソナリティ障害の理解と作業療法について考える。(事例)
13	各疾患の理解と作業療法展開⑫	認知症の理解と作業療法について考える。(事例)
14	新しい精神科医療の枠組みと作業療法	地域生活支援と作業療法、医療観察制度
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学13(義肢装具学)

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 : PTOTビジュアルテキスト 作業療法 義肢・装具学(羊土社) 参考書 : (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 義肢装具の基礎を学び、種類・適応疾患・正しい使用方法を理解する。

【講義概要】 義手と上肢装具に関してはチェックアウトの手段も習得する。

スプリント実習では最も基本的なスプリントの製作実習を行い、製作の一連の流れや対象者への安全確認も理解する。

回数	項 目	内 容
1	障害と義肢・装具	メーカーがエンドユーザーに向けて発信する義肢や装具のトピックスに
2	障害と義肢・装具	触れて、義肢装具の目的や使用感について学ぶ。
3	切断概論・義手の種類	切断原因・断端長による呼称・義手の分類のしかたについて学ぶ。
4	義手	上腕義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
5	義手	前腕義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
6	義手	筋電義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
7	義手のチェックアウト	義手がユーザに適しているかチェックする方法を学ぶ。
8	義手のチェックアウト	義手がユーザに適しているかチェックする方法を学ぶ。
9	義手とADL	義手を使用したADL・IADLの様子を学ぶ。
10	義足	義足の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
11	下肢装具	下肢装具の用途や着脱方法を学ぶ
12	上肢装具	疾患別・障害別に、上肢装具の用途や装着時間や着脱方法の
13	上肢装具	指導法などを学ぶ。
14	体幹装具	各種体幹装具の特徴を学ぶ。
15	各種歩行補助具の使用法	杖・車椅子・歩行器の構造と特徴を学び、調整方法の実習を行う。
16	各種歩行補助具の使用法	杖・車椅子・歩行器の構造と特徴を学び、調整方法の実習を行う。
17	スプリント	主に手関節・手指に用いるスプリントについて学ぶ。
18	スプリント	主に手関節・手指に用いるスプリントについて学ぶ。
19	スプリント製作実習	スプリントの分類・トレース法と直接法などの基本的な技法を学ぶ。
20	スプリント製作実習	トレース法を用いて短対立装具を、

2 1	スプリント製作実習	直接法を用いて手関節用および
2 2	スプリント製作実習	手指用スプリントを製作する。
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 第14回までは講義中心で、合間に教材の義肢装具に触れてもらう。 第15回以降は実技中心だが、感染症などの状況によって内容を変更することがある。		

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : 地域OT学(地域生活マネジメント実習)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 2 単位

教育時間 : 45 時間

教科書 : なし

参考書 :

教育目標 【 到達目標 】 : 地域生活者（在宅生活者）に対する作業療法の実践を体験する。

介護予防的サービスにおける作業療法士の役割を理解する。

チームにおける主体的なふるまいを身につける。

【講義概要】 立川市社会福祉協議会が主催する地域サロンに参加し、実践実習を行う。

実習前後のグループワークにおいて、当日へ向けての準備と実習を振り返り行う。

個ではなく集団での行動をメンバーが主体的に定め、地域リハチームの活動を疑似的に体験する。

回数	項 目	内 容
1	導入	地域生活マネジメント実習実施要項の説明とオリエンテーション
2	導入	地域生活マネジメント実習実施要項の説明とオリエンテーション
3	実習前グループワーク	グループ演習（フリータイム）
4	実習前グループワーク	社会福祉協議会の成り立ちや立川市社会福祉協議会について学ぶ。
5	実習前グループワーク	グループ演習（フリータイム）
6	実習前グループワーク	実習に向けて、役割分担・アクティビティ・進め方などを話し合う
7	実習前グループワーク	(担当教員の指導を受ける場合は前日までにアポをとること)
8	実習前グループワーク	
9	グループ発表	社協のサロンで実習当日に行う内容をグループごとに発表する
10	グループ発表	社協のサロンで実習当日に行う内容をグループごとに発表する
11	準備的グループワーク	グループ実習（フリータイム）
12	準備的グループワーク	実習に向けて、必要な物品の買い出しなどの準備を行う
13	準備的グループワーク	(担当教員の指導を受ける場合は前日までにアポをとること)
14	準備的グループワーク	
15	実習	立川市社会福祉協議会主催の地域サロンにおいて実習を行う (開催日時についてはサロンによって異なる)
16	実習	
17	実習	
18	実習	
19	実習後グループワーク	グループ演習（フリータイム）
20	実習後グループワーク	実習を振り返ってレポートにまとめる

2 1	グループ発表	実習レポートのグループ発表
2 2	グループ発表	実習レポートのグループ発表
2 3	まとめ	講評・統括
【成績評価方法】 グループワーク・実習・発表を評価対象とする。80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 グループワークを推奨する。 各グループで集合時刻や進行役などを決め、自発的に臨むこと		

2026年度 教育計画(作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : 臨床実習(臨床実習Ⅰ)

担当講師名 : OT 教員(笹野)

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 評価実習と関連の強い科目である。実習前評価(OSCE)・評価実習・

実習後評価(口述発表)を通じて、卒前の作業療法評価学習のまとめとする。

【講義概要】

主にOSCE(客観的臨床能力試験)とその演習から成る。OSCEで問われる内容は事前に通達されないが、

さまざまな対象者を想定した演習の中で、すでに学んだ各種検査方法を実際の対象者に合わせて行うことを学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	全般説明	評価実習の目的・内容・到達目標・実習前評価についての説明
2	OSCEの説明	実習前評価(客観的臨床能力試験)についての説明
3	記録・報告	POSと自由記載法
4	記録・報告	レジュメ形式とMTDLP
5	評価特論	身体障害領域の評価
6	評価特論	身体障害領域の評価
7	評価特論	身体障害領域の評価
8	評価特論	身体障害領域の評価
9	実技	評価実技
10	実技	評価実技
11	評価特論	精神科領域・面接
12	評価特論	コミュニケーション
13	評価特論	精神科領域・面接
14	評価特論	コミュニケーション
15	実習前評価	OSCE
16	実習前評価	OSCE
17	実習前評価	OSCEフィードバック
18	実習前評価	OSCEフィードバック
19	ケーススタディ	観察記録演習
20	ケーススタディ	観察記録演習

2 1	実習オリエンテーション	オリエンテーション・資料配布
2 2	実習オリエンテーション	オリエンテーション・資料配布
2 3	実習後評価	実習内容についての発表とフィードバック
2 4	実習後評価	実習内容についての発表とフィードバック
2 5	実習後評価	実習内容についての発表とフィードバック
2 6	実習後評価	実習内容についての発表とフィードバック
2 7	実習後評価	実習内容についての発表とフィードバック
2 8	実習後評価	実習内容についての発表とフィードバック
2 9	実習後評価	実習内容についての発表とフィードバック
3 0	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 筆記試験とOSCEと口述発表のすべてに合格した場合に成績判定を行う。80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とする。		
【授業の方法・形式と教員紹介】		